

氏名	西垣里志
学位の種類	修士(看護学)
学位記番号	修士第137号
学位授与年月日	平成22年3月25日
学位論文題目	慢性統合失調症患者の母親における疾病理解と障害 受容に関する研究

論 文 内 容 要 旨

※整理番号	137	(ふりがな) 氏 名	にし がき さと し 西 垣 里 志
修士論文題目	慢性統合失調症患者の母親における疾病理解と障害受容に関する研究		
<p>目的：慢性統合失調症患者の母親へのインタビュー調査を実施し、疾病理解と障害受容の関係を検討して、母親を中心とした家族支援のあり方について提言することを目的とする。</p> <p>方法：家族会から紹介された、統合失調症を発病して5年以上経過している子どもと同居している母親6人を対象にして、インタビューガイドを用いて半構成的面接を行った。得られたデータを質的帰納的方法で分析した。</p> <p>結果：インタビューの内容から、【母親なりの不十分な病気の理解】【病気との対峙】【子どもにとっての困難な病気との折り合い】【母親にとっての困難な病気との折り合い】【母親なりの子どもへの関わり方】【子どもの将来に心を砕く】【母親の役割】【医療に対する不満】【子どもの捉え方の転換】【病気の子どもと共に生きる】の10の上位カテゴリーが抽出された。</p> <p>考察：慢性統合失調症患者の母親の疾病理解は、【母親なりの不十分な病気の理解であった。そのために、【病気との対峙】も精神的な負担感が増すものとなっていた。また、病気の症状への対処も戸惑いがあり、生活経験に基づく【母なりの子どもへの関わり方】になっていた。統合失調症という疾患の特徴である、本人が病気の認識がしづらいこともあり、【子どもにとって困難な病気との折り合い】で子ども自身も苦しんでおり、その様子が母親にとってまた負担となっていた。さらに、そうした子どもの症状に付き合う大変さもあり子どもへの葛藤を抱え、【母親にとって困難な病気との折り合い】という状況を招いていた。しかし、母親は強い【母親の役割】意識を持ってその責任を果たしながら、【子どもの将来に心を砕く】日々を送っていた。また、統合失調症の疾患の経過では慢性期にあたり、目に見えた回復が見られないため、【医療に対する不満】もあり、それら全ては母親にとって精神的なストレスに結びつき重い負担感となっていた。</p> <p>こうした状況でも、母親は、【子どもの捉え方の転換】をはかり、【病気の子どもと共に生きる】ことを覚悟していた。子どもの病気に対する価値の転換をはかり、自分の人生に子どもの病気や、子どもの人生を統合していったと捉えることができる。</p> <p>看護師は、慢性期の統合失調症患者と共に生活をしている母親が、疾病の知識や理解が十分にできるように、情報を提供したり心理教育をしたりして、母親の負担感の軽減を図るような関わりをしていく必要があると考える。</p> <p>総括：慢性統合失調症患者の子どもと共に生活をしている母親は、疾病理解が不十分なために、症状への対処や子どもへの対応が経験に基づいたものになり、戸惑いや葛藤が見られる。こうしたことはストレスとなり、母親に重い負担感となる。負担感は障害受容にも影響するために。母親へ、病気の理解を促すような学習の機会を提供していき、多くの情報と正しい知識が獲得しやすい方法を模索していく必要がある。</p>			

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200字程度)
2. ※印の欄には記入しないこと。